

彦根市長 和田 裕行 × 建築家 坂 茂 さん ～思いを聞いてみた～

目指すものは、有効活用

ここ数年で、「SDGs」という言葉をよく目にするようになった人は多いのではないのでしょうか。世界中で持続可能な社会づくりが注目される中、彦根市にとっても「有効活用」とは、非常に重要なキーワードです。世界遺産を目指す彦根城の天守は、大津城の材料を再利用して建てられた可能性が高いと考えられています。彦根城建築の際にも「**今あるものを無駄にしない**」という思いがあったのかもしれませんが。

坂さんとの対談では、市長の図書館に対する思いを共有しました。「電子書籍が増える中、それでもやはり図書館が大事だ」という市民の声は非常に多い。妥協することなく、**彦根の新しいシンボルとなるような図書館を作れば**と思っています。」



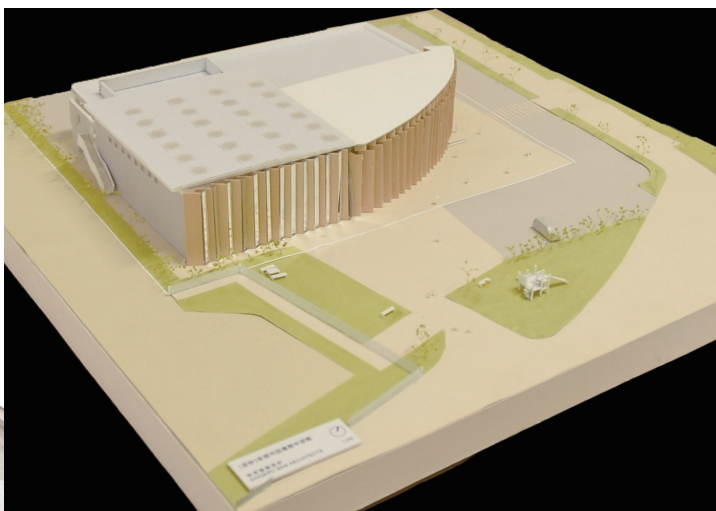
彦根市長 和田 裕行

今あるものをどうするか

「**今ある建物をどうリノベーションするかは世界の大きなテーマ**であり、ぜひ取り組みたいと思いました。」と語る坂さん。世界のテーマと彦根市の方針がリンクしたことが、今回の事業への参加のきっかけだったようです。「いい図書館には人が集まる」そんな思いから、市長との対談では、新築に比べて大きな制約がある中、**機能性、美しさ、利用者の居心地の良さを最大化する**秘訣を話されました。詳細は次のページへ。



建築家 坂 茂さん



▲図書館の模型



新図書館のイメージ



▲旧ひこね燦ばれす



彦根屏風をイメージした木のルーバー

機能性の高さと環境への配慮、さらには外観の美しさを実現するデザインです。また、直射日光を避けて間接光を取り入れる役割を果たすため、外を眺めながら読書ができるとともに、所蔵する本の長寿命化が図れます。

音環境に配慮したゾーニング

入り口付近は賑わいのあるスペースである一方、奥には個室などの静かなコーナーを設けることで、議論の場を求める人にも、静かに読書をしたい人にも居心地のいい空間を提供します。



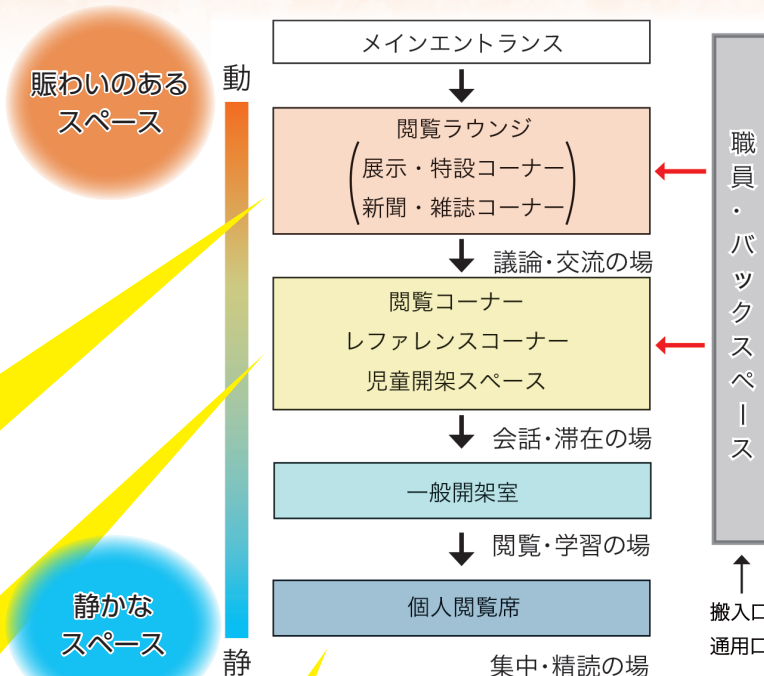
閲覧ラウンジは議論や交流の場としての活用が期待されます。



「楽しい」「自由」を表現した、まるで空に浮かぶような児童書架は、子どもが上がってみたいと思うような場所を目指します。



個人閲覧室では、静かな空間で集中して読書することができます。



新図書館は令和 10 年度の完成を目指しています。